

1 基本的な考え方

札幌市のスポーツ施策推進にあたっては、第3章で整理した札幌のスポーツの現状と課題や第4章で挙げた本計画に取り入れる視点を踏まえ、年齢や性別、障がいの有無、国籍等に関わらず、誰もが身近な場所でスポーツに親しむことができるよう、スポーツを「する」、「みる」、「ささえる」機会を充実させ、スポーツ参画人口を拡大することを目指します。

また、そのことを通して、スポーツを通じた健康増進や共生社会の実現、地域・経済の活性化などの社会課題の解決に繋がっていきます。

これらの観点を踏まえ、本計画の基本理念や目標を以下のとおり定めます。

2 基本理念

スポーツの力でまちの未来を切り拓く

スポーツには、「する」、「みる」、「ささえる」という様々な形での自発的な参画を通して、楽しさや喜びを得られるという本質的な価値があり、スポーツを通じて心身の健全な発達、健康及び体力の保持増進、精神的な充足がもたらされるといった効果があると言われています。

また、こうしたスポーツそのものが持つ価値に加えて、スポーツを通じた青少年の健全育成や健康寿命の延伸、地域コミュニティの醸成、共生社会の実現、経済発展など、スポーツには、社会の活性化や様々な社会課題解決に寄与する価値があると考えられています。

国の第3期計画においても、こうしたスポーツの価値を改めて確認したうえで、こうした価値を発揮し、更に高めていく施策に取り組むとしています。

また、スポーツ庁は、平成27年（2015年）9月に国際連合で採択された「持続可能な開発目標（SDGs:Sustainable Development Goals）※³⁹」の達成に向けても、スポーツを通じて貢献していくこととしています。

以上のとおり、スポーツの持つ力は、様々な社会的課題の解決等に対して効果が期待できるものであり、札幌市においても、スポーツを通じて、まちの抱える様々な課題を解決し、まちのよりよい未来を切り拓いていくことが重要です。

以上を踏まえて、本計画の基本理念を「スポーツの力でまちの未来を切り拓く」と定めます。

※ 39 【持続可能な開発目標（SDGs）】…2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための 2030アジェンダ」にて記載された2016年から2030年までの国際目標。持続可能な世界を実現するための17の目標（ゴール）と169の取組（ターゲット）から構成されている。

3 3つの目標

本計画の基本理念を実現するため、次の3つの目標を定めます。

目標1 スポーツを通じて市民が生き生きとくらすまち

市民誰もが、一人一人のニーズに合わせて気軽にスポーツに参加し、楽しむことで、生涯にわたって心身の健康が増進され、活力に満ちた生活を送れることを目指します。

スポーツは心身の健全な発達や健康及び体力の保持増進、精神的な充足感の獲得、地域交流の促進、地域間交流の基盤の形成などにつながる活動であり、少子高齢化の進行や人生100年時代の到来を迎える中、こうしたスポーツの力によって、身体的・精神的・社会的な健康を増進し、市民が幸せを感じながら生涯にわたって活躍できることが重要です。

目標1では、市民が年齢や体力、経験、目的、ライフステージなどの違いに応じて、自分のニーズに合わせて自発的かつ継続的にスポーツに参加し、楽しむことができるように、行政をはじめとする様々な組織・個人が協働しながら、ソフト・ハード両面において、必要な措置を講じ、スポーツを通して、生涯にわたって心身の健康が増進され、活力に満ちた生活を送れる社会の実現を目指します。

目標2 ひととひとがスポーツでつながる共生のまち

年齢や性別、障がいの有無、国籍等を問わず、市民が多様な形でスポーツに共に参加することができおり、スポーツを通して関わり合うことで、相互に理解・尊重し合える社会の実現を目指します。

スポーツは誰もが「する」、「みる」、「ささえる」といった自分に合った形で参加することができます。個々の価値観やライフスタイルが多様化する中、スポーツをきっかけとして多様な人々がつながり、コミュニケーションや交流が促進され、スポーツの価値を共有することは、心のバリアフリーの浸透につながるものです。

目標2では、年齢や性別、障がいの有無、国籍等を問わず、様々な立場・背景を有する市民が共にスポーツに参加できる環境の構築や機運の醸成などに取り組み、スポーツを通して触れ合い、関わり合うことで、相互に個性や多様性を理解、尊重し合うとともに、お互いが支え合っている共生社会の実現を目指します。

目標3 スポーツによりにぎわいがあふれているまち

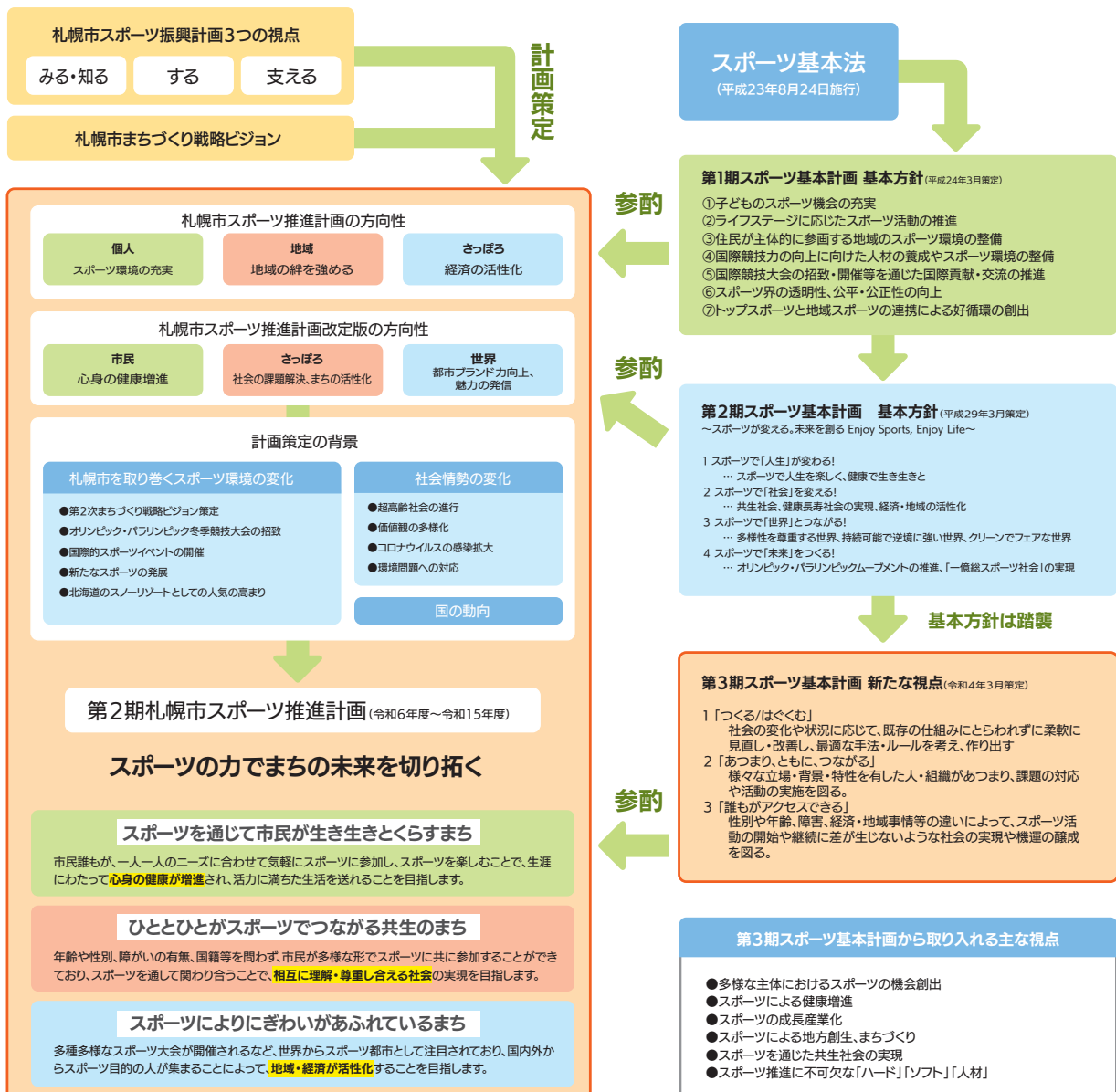
多種多様なスポーツ大会が開催されるなど、世界からスポーツ都市として注目されており、国内外からスポーツ目的の人が集まることによって、地域・経済が活性化することを目指します。

スポーツは多くの人々を惹きつける魅力的なコンテンツであり、人口減少局面を迎える中、大規模なスポーツイベントの開催などを契機に交流人口を拡大することで、スポーツを通じてまちのにぎわいを創出することができます。

札幌市では昭和47年（1972年）に開催したアジア初のオリンピック冬季競技大会をはじめ、ラグビーワールドカップ2019™、東京2020大会のサッカー、マラソン、競歩競技といった大規模な国際大会の開催を通して、大会運営ノウハウ等の経験・知見を蓄積してきました。また、札幌に本拠地を置くトップスポーツチームと連携したシティプロモートも展開してきました。

目標3では、このような札幌特有のスポーツ資源を生かして、国際大会をはじめ、多種多様なスポーツイベントやトップレベルの試合開催・誘致、スポーツツーリズムの推進などを通じて、世界にスポーツ都市としての魅力を発信するとともに、世界中から人々を集め、地域・経済の活性化を目指します。

図表32 第2期札幌市スポーツ推進計画の方向性



4 成果指標と目標数値

基本理念・目標の実現のため、具体的な成果指標を設定し、その目標数値を定めます。

なお、本計画の策定においては、成果指標の見直しを行い、新たに「スポーツ目的の来札観光客数（道外・海外）」、「スマイル・サポーターズ登録者数」、「強化指定選手に選出されるアスリートの育成数」を取り入れています。

成果指標		現状	目標値	主な 関連 目標
		令和4年度 (2022年度)	令和15年度 (2033年度)	
①スポーツ実施率	20歳以上・週1回以上 ※1	57.0%	70.0%	目標1 目標2
	障がい者20歳以上・週1回以上 ※2	53.6%	60.0%	目標1 目標2
② ウィンタースポーツ実施率（18歳～49歳・年1回以上） ※3		18.9%	30.0%	目標1 目標3
③ 直接スポーツ観戦率（18歳以上・年1回以上） ※4		32.3%	50.0%	目標2 目標3
④ スポーツ目的の来札観光客数（道外・海外） ※5		236,000人	1,000,000人	目標2 目標3
⑤ スマイル・サポーターズ登録者数 ※6		1,070人	2,000人	目標2
⑥ 強化指定選手に選出されるアスリートの育成数 ※7		12人(延べ)	50人(延べ)	目標1

- ※1 札幌市が実施する「指標達成度調査(事業の効果に関する市民意識調査)」において、無作為抽出した市内在住 18歳以上の男女 4,000人を対象に調査票を発送し、過去 1年以内のスポーツ(運動)の実施状況をお聞きしています。スポーツには、競技スポーツだけではなく、健康づくりのための散歩やジョギングなどの軽い運動、身体を動かすレクリエーション活動なども含みます。なお、スポーツ実施率を算出する際には、18歳と19歳の回答者を除いています。
- ※2 札幌市が実施する「障がい者の運動などの活動に関するアンケート調査」において、無作為抽出した市内在住 18歳以上の身体障害者手帳又は療育手帳、精神障害者保健福祉手帳をお持ちの方 2,000人を対象に調査票を発送し、過去 1年以内のスポーツ(運動)の実施状況をお聞きしています。※1と同じく、スポーツには、健康づくりのための運動やレクリエーション活動も含みます。なお、スポーツ実施率を算出する際には、18歳と19歳の回答者を除いています。
- ※3 札幌市が実施する「指標達成度調査(事業の効果に関する市民意識調査)」において、過去1年以内のウィンタースポーツを実施した市民(18歳～49歳)の割合を算出しています。
- ※4 札幌市が実施する「指標達成度調査(事業の効果に関する市民意識調査)」において、過去1年以内に、テレビなどではなく競技会場にて直接スポーツを観戦した市民の割合を算出しています。
- ※5 大会誘致やシティプロモートによる経済波及効果を示す指標として新たに設定しました。札幌市が実施する「観光客動態調査」における札幌滞在中の目的として「スポーツをする(スキー、ゴルフなど)」、「スポーツ観戦(プロ野球、サッカー、ゴルフなど)」を選択した割合に、来札観光客数(道外・海外客数)を乗じて算出しています。
- ※6 スポーツを「ささえる」人材の育成状況を示す指標として、新たにスポーツボランティア団体である「スマイル・サポーターズ」の登録者数を設定しました。
- ※7 競技力向上の状況を示す指標として、札幌市と札幌市スポーツ協会が取り組んでいる、さっぽろジュニアアスリート発掘・育成事業の育成選手から、強化指定選手に選出されたアスリート数を新たに設定しました。